

おわりに

本研究の実践では、課題を追究する学習を通して歴史的思考力を育成することを目指した。**事例1**では歴史的事象を多角的に考察する力や時代の特徴を的確に把握する力、**事例2**では歴史的事象を歴史的文脈の中で理解する力や歴史的事象の意義について考察する力、**事例3**では歴史を原因と結果のつながりとして捉え、歴史的事象を歴史的文脈の中で理解する力を付けさせたいと考え、それぞれ一定の成果をあげることができたと考えている。また、当初に期待した、歴史への興味・関心が高まり、歴史に対する理解がより深まるといった成果もみられた。各学校において、本研究の実践を、生徒の実態に合わせて活用していただければ幸いである。その際、以下に示すような指導の工夫をお願いしたい。

1 継続的・反復的な課題追究学習の取り組み

歴史的思考力は、一朝一夕に身に付くものではない。繰り返し取り組むことで、次第に身に付くものであるから、継続的・反復的指導を、年間の指導計画に位置付けることが必要である。本研究のいずれの実践においても、生徒は、考えたり表現したりすることに、次第にスムーズに取り組むことができるようになった。そして、それぞれの実践でねらいとした歴史的思考力を身に付けることが、ある程度できた。また、反復して行うことで、教師も指導に習熟し、より効率的かつ効果的に課題追究学習を実践することができると考えられる。

2 日常の授業の中で課題追究学習に取り組む工夫

日常的に課題追究学習を行うために、教師にとってもなるべく負担にならず、取り組みやすい教材の開発が必要である。本研究では、基本的に1時間、多くても3時間でできる授業実践を考えた。適切な課題を設定し、生徒に考えさせたり話し合わせたりする学習は、50分授業の中の15分であっても、生徒の思考力を高めるだけでなく、知識・理解を確実にするために有効である。なお、課題追究学習を実施する際は、生徒の学習の様子を見極め、教師の指導方法や指導内容に常にフィードバックし、改善を加えていくことが重要である。

3 生徒の主体的な歴史学習を促す工夫

課題追究学習において、生徒は、自ら考えたり表現したり、あるいは間違えたりすることによって、思考力が高まるだけでなく、知識・理解が確実に定着することを感じていた。課題追究学習の成果を生徒に実感させることが、生徒の歴史学習への主体的・意欲的な取組につながると考えられる。

事例1では、生徒は、新しい視点に気付いたり、歴史に対する見方・考え方を広げたりすることができた。歴史を学ぶことが、現在の日本や世界を理解し未来を考えることにもつながることを、生徒に気付かせる工夫をお願いしたい。歴史を学ぶ意義を実感することで、生徒の主体的な学習が一層促されるものと考えている。

4 生徒の学び合いを促すグループ学習の形態の工夫

本研究では、個人単位で生徒一人一人に考えさせる学習形態をとることが多かったが、ワークショップ型などのグループでの学習形態を取り入れることで、生徒同士の「学び合い」が生まれ、一層学習効果が高まることが期待できる。今後は、付箋等を使って気付いたことや考えたことを出し合って類型化したり、意志決定したりするような、作業を取り入れたグループ学習に取り組むことも検討する必要がある。本研究においても取り組むべき課題のひとつであると考えている。